

Ⅲ－Ⅲ 作業療法学分野

神経障がいリハビリテーション学特論	1
神経障がいリハビリテーション学特論演習	3
作業活動解析学特論	7
作業活動解析学特論演習	9
内部障がいリハビリテーション学特論	11
内部障がいリハビリテーション学特論演習	13
発達過程作業療法学特論	16
発達過程作業療法学特論演習	18
作業療育学特論	21
作業療育学特論演習	24
作業療法学特別研究	28

授業科目	神経障がいリハビリテーション学特論		科目英語表記	Advanced Rehabilitation for neurological disorder		
職名、担当教員氏名	教授 菊池 昭夫 教授 外川 佑					
科目責任者氏名	菊池 昭夫					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能の概説、脳画像の見方、脳損傷の原因疾患、脳損傷によって生じる種々の症状を説明する。 ・脳卒中および頭部外傷の対象者を対象とした自動車運転再開に向けた評価や支援の流れや、脳損傷によって生じる種々の運転行動上の問題および実施する評価、支援の考え方について説明する。 *学生の要望があれば、テーマを絞り、それに対応した講義内容にする場合もある。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能、脳画像の見方、脳損傷の原因疾患、症状、高次脳機能障がいについて図を描いて説明し、研究に応用することができる。 ・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じる種々の運転行動上の問題と実施する評価・支援とそのアウトカムを、研究に応用することができる。 					
成績評価方法	レポート（50％）と口頭発表（50％）により評価する。					
成績評価基準	上記について、A:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する。					
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	脳の構造と機能	脳の構造と機能について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
2	脳の構造と機能	脳の構造と機能について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
3	脳画像の見方	脳画像の見方について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
4	脳損傷の原因疾患	脳損傷の原因疾患について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
5	脳損傷の原因疾患	脳損傷の原因疾患について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
6	脳損傷の症状	脳損傷の症状について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
7	脳損傷の症状	脳損傷の症状について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池
8	高次脳機能障がい	高次脳機能障がいについて学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	菊池

9	自動車運転評価と支援	自動車運転評価と支援について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
10	自動車運転評価と支援	自動車運転評価と支援について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
11	神経心理学的検査	神経心理学的検査について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
12	神経心理学的検査	神経心理学的検査について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
13	ドライビングシミュレータ評価	ドライビングシミュレータ評価について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
14	実車運転評価	実車運転評価について学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川
15	運転行動モデル	運転行動モデルについて学ぶ	スライドとプリントを用いた講義、参考図書の輪読、論文の抄読、症例の検討、討論などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください	外川

日付

後日連絡

教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊池 昭夫：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	輪読、抄読の予習をしていただく場合がある

授業科目	神経障がいリハビリテーション学特論演習		科目英語表記	Practicum rRehabilitation for neurological disorder		
職名、担当教員氏名	教授 菊池 昭夫 教授 外川 佑					
科目責任者氏名	菊池 昭夫					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位	
授業概要	<p>・脳損傷によって生じる種々の症状、責任病巣、病態機序を説明する。特に、パーキンソン病などの神経変性疾患の症候、病態を中心に自ら学習し、結果をまとめ、発表する手助けを行う。</p> <p>・脳卒中および頭部外傷の対象者を対象とした自動車運転再開に向けた評価や支援の流れや、脳損傷によって生じる種々の運転行動上の問題および実施する評価、支援を中心に自ら学習し、結果をまとめ、発表する手助けを行う</p> <p>*学生の要望があれば、テーマを絞り、それに対応した講義内容にする場合もある。</p>					
到達目標	<p>・パーキンソン病などの神経変性疾患の症候、病態について自主的に、先行研究の結果、不明点などを調査、整理し、発表できる。神経変性疾患に関する研究の計画を立てることができる。</p> <p>・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じる種々の運転行動上の問題と実施する評価・支援について自主的に、先行研究の結果、不明点などを調査、整理し、発表できる。自動車運転支援に関する研究の計画を立てることができる。</p>					
成績評価方法	レポート(50%)と口頭発表(50%)により評価する。					
成績評価基準	<p>A. 特に優れている：積極的に授業へ参加し到達目標を適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる。</p> <p>B. 優れている：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠を踏まえて論理的に説明できる。</p> <p>C. 良好である：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠を用いてある程度論理的に説明できる。</p> <p>D. 最低限の到達：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。</p> <p>E. 目標に到達していない：説明できない。</p>					
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する様々な研究アプローチについて学ぶ	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献で用いられた手法の討議、症例の解釈についての討論、文章化などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。	菊池
2	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する様々な研究アプローチについて学ぶ	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献で用いられた手法の討議、症例の解釈についての討論、文章化などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。	菊池
3	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する様々な研究アプローチについて学ぶ	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献で用いられた手法の討議、症例の解釈についての討論、文章化などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。	菊池
4	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する様々な研究アプローチについて学ぶ	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献で用いられた手法の討議、症例の解釈についての討論、文章化などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。	菊池
5	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する様々な研究アプローチについて学ぶ	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献で用いられた手法の討議、症例の解釈についての討論、文章化などを行う	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。	菊池
6	脳損傷、神経変性疾患	脳損傷の症状・責任病巣・病態機序、神経変性疾患に対する	基礎的な講義を行った後、症例の提示、文献の検索、文献	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確	菊池

ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊池 昭夫：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	発表の準備をしていただく場合がある。

授業科目	作業活動解析学特論	科目英語表記	Advanced OT for analysis of activities		
職名、担当教員氏名	教授 藤井 浩美				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名	藤井 浩美				
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	生活障害を日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から捉え、動作分析や作業分析の研究をはじめとして、生活環境や心理社会的側面について最新の知見を概説する。一方では、生体の構造と機能を基礎とした機能評価、各種疾患に現れる障害パターンを取り上げ臨床で用いられる作業活動との関連性を教授する。そして、臨床で行われる高齢者や障害者に対する作業療法の有用性について理解を検証する。				
到達目標	日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を解説できる。				
成績評価方法	グループ討議度(ミニコメントシート):25%(5回) 討議への参加度(討議内容のまとめ):25%(5回) 最終時レポート:50% 作業療法学特別研究の研究計画作成が可能かを判定する。				
成績評価基準	特に優れている:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を理論的に説明できる。 優れている:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を説明できる。 良好である:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法がある程度説明できる。 最低限の到達:根拠は乏しいが、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法がある程度説明できる。 目標に達していない:日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法について、説明できない。				
授業形式	対面と遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	作業活動の実践	作業活動の実践を示し、討議する。その後、この先の研究計画を討議する。	講義と演習	関連する英文献を探し、その内容をまとめて発表する。	藤井浩美
2	研究のすすめ方(その1)	具体的な研究手続きが説明できるよう講義と討議をする。	講義と演習	自分の研究テーマに関連する英文献を探し、その内容をまとめて発表する。	藤井浩美
3	研究の進め方(その2)	作業仮説の立て方が説明できるように講義と討議をする。	講義と演習	自分の研究テーマに関連する英文献を探し、その内容をまとめて発表する。	藤井浩美
4	ヒトの中枢神経機構の解析の理解	ヒトの中枢神経機構解析の歴史と解析方法を概説し、討議する。	講義と演習	ヒトの中枢神経機構解析の英文論文を抄読し、その内容をまとめて発表する。	藤井浩美
5	研究法の実践	作業療法学分野で修めた成果を検証する。	演習	自分の研究計画をまとめてプレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美
6	作業活動解析の理解(その1)	日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から捉え、研究手法に関する内容を討議する。	講義と演習	作業活動解析に関連する英文献を探し、その内容をまとめて発表する。	藤井浩美
7	作業活動解析の理解(その2)	日常生活活動の具体的研究手法を討議する。	演習	自分の研究計画と日常生活活動の関連をまとめてプレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美
8	人、作業、環境の関係の理解(その1)	作業活動解析学による研究デザインを理解し、説明する。	講義と演習	作業活動解析に関連する英文献を探し、その内容をまとめ	藤井浩美

				て発表する。	
9	人、作業、環境の 関係の理解（その2）	人、作業、環境の 関係の具体的な 研究手法を討議する。	演習	自分の研究計画と人、作業、 環境の関係をまとめて プレゼンテーションの準備を する。	藤井浩美
10	作業活動解析のま とめ	これまでの作業活動解析学特 論の経過を踏まえて、自分の 研究計画をまとめ、全国作業 療法学大学院ゼミナールでの 発表準備を行う。	演習	自分の研究テーマに関するプ レゼンテーション資料の準備 をする。	藤井浩美
11	研究の実際	全国作業療法学大学院ゼミナ ールに参加して、他大学の大 学院生および教員に対して、 自分自身の研究計画を発表し 質疑応答する。加えて、他大 学の大学院生の発表に対し、 質疑応答する。	演習	他大学の大学院生との研究に 関する情報交換をする。	藤井浩美、他
12	同上	同上	同上	同上	同上
13	同上	同上	同上	同上	同上
14	同上	同上	同上	同上	同上
15	同上	同上	同上	同上	同上

日付

後日連絡

教科書	
参考書	G.Gillen & C.Brown, et al: Willard & Spackman's Occupational Therapy, 14th ed.. WOLTERS KLUWER, 2024. 鎌倉 矩子、他：作業療法研究法入門.三輪書店.東京,1997. 市原清志：バイオサイエンスの統計学. 南江堂. 東京, 1993.
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	藤井 浩美：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業活動解析学特論演習	科目英語表記	Practicum OT for analysis of activities		
職名、担当教員氏名	教授 藤井 浩美				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	生体の構造と機能を基礎とした機能評価、能力評価および各種疾患に現れる障害パターンを取り上げ臨床で用いられる作業活動との関連性を見出すための計測方法を教授する。そして、臨床で行われる高齢者や障害者に対する作業療法の有用性について理解を検証する。				
到達目標	日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための研究デザインを具体的にを行い、バイスを予測しながら実施に向けた準備ができる。				
成績評価方法	グループ討議度(ミニコメントシート):25%(5回) 討議への参加度(討議内容のまとめ):25%(5回) 最終時レポート:50% 作業療法学特別研究の実施が可能かを判定する。				
成績評価基準	特に優れている:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を理論的に実施できる。 優れている:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を実施できる。 良好である:根拠を踏まえて、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法がある程度実施できる。 最低限の到達:根拠は乏しいが、日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法がある程度実施できる。 目標に達していない:日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法について、実施できない。				
授業形式	対面と遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究計画の討議	作業活動解析学特論で作成した研究計画を討議し、修正を加えることができる。	演習	関連する英論文を抄読し、紹介する。	藤井浩美
2	パイロット研究	研究計画に則り、パイロット研究を実施する。	演習と実習	関連する英論文を抄読し、紹介する。	藤井浩美
3	研究計画の検討	修正した研究計画を主・副研究指導教員、その他を含めて討議し、適切な修正を加えることができる。	演習	プレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美、他
4	パイロット研究	研究計画に則り、パイロット研究を実施する。	演習と実習	関連する英論文を抄読し、紹介する。	藤井浩美
5	同上	同上	同上	同上	同上
6	同上	同上	同上	同上	同上
7	同上	同上	同上	同上	同上
8	研究計画の検討	修正した研究計画を主・副研究指導教員、その他を含めて討議し、適切な修正を加えることができる。	演習	プレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美、他
9	パイロット研究	研究計画に則り、パイロット研究を実施する。	演習と実習	関連する英論文を抄読し、紹介する。	藤井浩美
10	同上	同上	同上	同上	同上

11	同上	同上	同上	同上	同上
12	同上	同上	同上	同上	同上
13	同上	同上	同上	同上	同上
14	同上	同上	同上	同上	同上
15	同上	同上	同上	同上	同上
16	同上	同上	同上	同上	同上
17	研究計画の検討	修正した研究計画を主・副研究指導教員、その他を含めて討議し、適切な修正を加えることができる。	演習	プレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美、他
18	パイロット研究	研究計画に則り、パイロット研究を実施する。	演習と実習	関連する英論文を抄読し、紹介する。	藤井浩美
19	同上	同上	同上	同上	同上
20	同上	同上	同上	同上	同上
21	同上	同上	同上	同上	同上
22	同上	同上	同上	同上	同上
23	同上	同上	同上	同上	同上
24	同上	同上	同上	同上	同上
25	同上	同上	同上	同上	同上
26	同上	同上	同上	同上	同上
27	同上	同上	同上	同上	同上
28	同上	同上	同上	同上	同上
29	同上	同上	同上	同上	同上
30	研究計画の最終確認	修正した研究計画を主・副研究指導教員、その他を含めて討議し、適切な研究計画に仕上げる。	演習	プレゼンテーションの準備をする。	藤井浩美、他

日付

後日連絡

教科書	
参考書	G.Gillen & C.Brown, et al: Willard & Spackman's Occupational Therapy, 14th ed.. WOLTERS KLUWER, 2024. 鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門.三輪書店.東京,1997. 市原清志：バイオサイエンスの統計学. 南江堂. 東京, 1993.
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	藤井 浩美：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	内部障がいリハビリテーション学特論	科目英語表記	Advanced Rehabilitation for Internal Medicine		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	内部障がい疾患によって生じる種々の病態を理解したうえでリスク管理について教授する。 最新の内部障がい分野の研究知見について情報収集、その内容をプレゼンテーションし討議する。				
到達目標	1. 内部障がい疾患の特性を理解したうえでリスク管理を理解できる。 2. 最新の内部障がい分野の研究知見について情報収集し、その内容をプレゼンテーションできる。 3. 最新の内部障がい分野の研究知見内容を理解できる。				
成績評価方法	グループ討議：50% レポート提出：50%				
成績評価基準	到達目標1～3に対して 特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る				
授業形式	対面または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	リハビリテーションにおけるリスク管理Ⅰ（総論）	急変の心構えと基礎的知識 安全管理・推進のためのガイドライン	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
2	リハビリテーションにおけるリスク管理Ⅱ（総論）	リスク管理のための情報収集 リハビリテーション中に起きたアクシデントと法的責任	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
3	疾患ごとの急変予測Ⅰ	脳卒中の急変予測 運動器疾患の急変予測	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
4	疾患ごとの急変予測Ⅱ	循環器疾患の急変予測 呼吸器疾患の急変予測	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
5	疾患ごとの急変予測Ⅲ	悪性腫瘍の急変予測 糖尿病の急変予測	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
6	リハビリテーションに関するその他のリスクⅠ	転倒の予測方法 転倒の予防用法と転倒後の対処	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
7	リハビリテーションに関するその他のリスクⅡ	窒息事故の予測と対応 吸引の基礎知識とそれに伴うリスク	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
8	リハビリテーションに関するその他のリスクⅢ	感染管理	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
9	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅰ	呼吸器疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤

10	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅱ	呼吸器疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
11	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅲ	循環器疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
12	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅳ	循環器疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
13	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅴ	その他疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
14	内部障がいリハビリテーションに関する文献調査と検討Ⅵ	その他疾患領域のリハビリテーションに関する文献レビューを行う。 その後、リハビリテーション効果など特定のテーマを決めて討議する。	演習、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
15	まとめ	1回から14回までの学習に基づいて、内部障がいリハビリテーションの臨床的課題について討議する。	グループワーク	内部障がいリハビリテーションの臨床的課題について事前準備する	佐藤

日付

後日連絡

教科書	授業ごとに文献を指定します。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	内部障がいリハビリテーション学特論演習	科目英語表記	Practicum rRehabilitation for Internal Medicine		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	前半は、内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインに関する講義・討議、内部障がい患者の様々な事例を通じてEBMについて検討する。 後半は、簡易的に計測できる活動量計を用いて内部障害の改善や予防について考える。				
到達目標	1. 内部障がい患者の事例を基にEBMについて理解できる。 2. 活動量計を用いて身体活量の可視化を理解できる。 3. 活動量計を用いた内部障害の改善や予防について理解できる。				
成績評価方法	グループ討議 (50%) レポート (50%)				
成績評価基準	到達目標1～3に対して 特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る				
授業形式	対面または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅠ	循環器疾患リハビリテーションに関わる診療ガイドラインについて講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
2	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅡ	循環器疾患リハビリテーションに関わる診療ガイドラインを基にリハビリテーションの在り方を討議する。	講義、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
3	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅢ	呼吸器疾患リハビリテーションに関わる診療ガイドラインについて講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
4	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅣ	呼吸器疾患リハビリテーションに関わる診療ガイドラインを基にリハビリテーションの在り方を討議する。	講義、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
5	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅤ	糖尿病関連リハビリテーションに関わる診療ガイドラインについて講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
6	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅥ	糖尿病関連リハビリテーションに関わる診療ガイドラインを基にリハビリテーションの在り方を討議する。	講義、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
7	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅦ	悪性腫瘍リハビリテーションに関わる診療ガイドラインについて講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
8	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅧ	悪性腫瘍リハビリテーションに関わる診療ガイドラインを基にリハビリテーションの在り方を討議する。	講義、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤

9	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅨ	内部障がい関連リハビリテーションに関わる診療ガイドラインについて講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
10	内部障がいリハビリテーションに関わる診療ガイドラインⅩ	内部障がい関連リハビリテーションに関わる診療ガイドラインを基にリハビリテーションの在り方を討議する。	講義、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
11	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅰ	循環器疾患の事例検討Ⅰ	講義・グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
12	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅱ	循環器疾患の事例検討Ⅱ EBMについて討議する	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
13	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅲ	呼吸器疾患の事例検討Ⅰ	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
14	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅳ	呼吸器疾患の事例検討Ⅱ EBMについて討議する	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
15	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅴ	糖尿病患者の事例検討Ⅰ	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
16	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅵ	糖尿病患者の事例検討Ⅱ EBMについて討議する	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
17	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅶ	内部障がい患者の事例検討Ⅰ	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
18	内部障がいリハビリテーションに関わる文献検討Ⅷ	内部障がい患者の事例検討Ⅱ EBMについて討議する	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
19	活動量計を用いた身体機能評価Ⅰ	活動量計とは 活動量計の原理	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
20	活動量計を用いた身体機能評価Ⅱ	活動量計から修得できる項目	講義	講義終了後に復習してください。 活動量計での計測作業	佐藤
21	活動量計を用いた身体機能評価Ⅲ	活動量計の臨床活用	講義	講義終了後に復習してください。 活動量計での計測作業	佐藤
22	活動量計からのデータ分析・解析方法Ⅰ	活動量計からのデータ分析・解析方法について解説する。	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
23	活動量計からのデータ分析・解析方法Ⅱ	自らのデータを用いて分析する。	講義、グループワーク（分析・解析作業）	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
24	活動量計からのデータ分析・解析方法Ⅲ	自らのデータを用いて分析する。	講義、グループワーク（分析・解析作業）	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
25	活動量計を用いた文献調査Ⅰ	活動量計を用いた文献レビューを行う。 文献に対する質疑応答を行う。	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
26	活動量計を用いた文献調査Ⅱ	活動量計を用いた文献レビューを行う。 文献に対する質疑応答を行う。	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
27	活動量計を用いた文献調査Ⅲ	活動量計を用いた文献レビューを行う。 文献に対する質疑応答を行う。	グループワーク、討議	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
28	プレゼンテーションⅠ	受講者自身のデータをもとに、結果・考察を発表する。 内部障がいリハビリテーション	プレゼンテーション、討議	受講者自身のデータをもとに、結果・考察を発表する。 内部障がいリハビリテーション	佐藤

		ン分野における活動量計活用の可能性について討議する。		ン分野における活動量計活用の可能性について討議する。	
29	プレゼンテーション II	受講者自身のデータをもとに、結果・考察を発表する。内部障がいリハビリテーション分野における活動量計活用の可能性について討議する。	プレゼンテーション、討議	受講者自身のデータをもとに、結果・考察を発表する。内部障がいリハビリテーション分野における活動量計活用の可能性について討議する。	佐藤
30	まとめ	1回から29回の学習内容を通じて、内部障がいリハビリテーションの臨床的課題や発展性について討議する。	グループ、討議	事前に内部障がいリハビリテーションの臨床的課題や発展性についてまとめておくこと。	佐藤
日付					
後日連絡					

教科書	授業ごとに文献を指定します。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	発達過程作業療法学特論	科目英語表記	Advanced OT for developmental process		
職名、担当教員氏名	准教授 森 直樹				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	発達障がい作業療法の対象疾患は多様であり、その疾患特性に応じた評価、治療方略が求められる。本科目では、発達障がい領域における臨床実践力を高めるため、講義と討論から治療方略を学ぶ。また、発達障がい領域の最新の知見やトピックスについて英文抄読を行い、作業療法の観点から理解を深める。				
到達目標	1) 発達障がい作業療法における対象疾患の特性を理解できる。 2) 発達障がい領域における具体的な作業療法評価、治療方略を説明できる。				
成績評価方法	到達目標1～2を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明(表現)できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明(表現)できる 目標に到達していない； 説明(表現)できない				
成績評価基準	筆記試験(100%)：到達目標1)～2)に対して				
授業形式	対面およびオンライン				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経発達の治療法①	神経発達の治療法の理論を深め、事例検討をもとに評価、介入法について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
2	神経発達の治療法②	神経発達の治療法の理論を深め、事例検討をもとに評価、介入法について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
3	感覚統合療法理論、評価、治療介入①	感覚統合療法理論の理解を深め、事例検討をもとに評価、介入について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
4	感覚統合療法理論、評価、治療介入②	感覚統合療法理論の理解を深め、事例検討をもとに評価、介入について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
5	感覚統合療法理論、評価、治療介入③	感覚統合療法理論の理解を深め、事例検討をもとに評価、介入について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
6	感覚統合療法理論、評価、治療介入④	感覚統合療法理論の理解を深め、事例検討をもとに評価、介入について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
7	訪問作業療法(肢体不自由)①	小児期の訪問作業療法の実際について解説し、事例検討をもとに評価、介入について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
8	訪問作業療法(発達障害)②	小児期の訪問作業療法の実際について解説し、事例検討を	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行	森

		もとに評価、介入について学習する		い、積極的に学習してください。	
9	特別支援教育における作業療法①	特別支援教育における作業療法の実践について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
10	特別支援教育における作業療法②	特別支援教育における作業療法の実践について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
11	発達障がい領域におけるICT支援①	発達障がい領域におけるICT支援の実践について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
12	発達障がい領域におけるICT支援②	発達障がい領域におけるICT支援の実践について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
13	発達障がい領域における福祉用具支援	発達障がい領域における福祉用具（車いす、コミュニケーションツールなど）の実践について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
14	発達障がい領域における最新のトピックス	発達障がい領域における最新のトピックスについて文献検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森
15	研究計画の立案、文献検索、研究デザイン	研究計画の立案、文献検索、研究デザインについて学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森

日付

後日連絡

教科書	適宜、プリント等を配布する
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	nmori@yachts.ac.jp(森研究室)
備考	

授業科目	発達過程作業療法学特論演習	科目英語表記	Practicum OT for developmental process		
職名、担当教員氏名	准教授 森 直樹				
科目責任者氏名	森 直樹				
学内連絡教員氏名	なし				
分野	作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	発達過程作業療法学特論をもとに、具体的な実践能力を修得するための演習を実施する。また、発達障がい領域の最新の知見やトピックスについて英文抄読及び討議により作業療法の観点から理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 発達過程作業療法領域における遅れや滞りを作業療法の観点から理解する。 2) 神経発達の治療理論における作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 3) 感覚統合療法理論における、作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 4) 地域作業療法（訪問作業療法）における評価、治療介入について演習を通して修得する。 5) 特別支援教育における作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 6) 発達障がい領域における福祉用具、ICT支援について演習を通して修得する。 7) 研究課題を検証するための研究計画の立案、方略について説明できる。 				
成績評価方法	<p>到達目標1～7を評価する</p> <p>特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる</p> <p>優れている； 根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる</p> <p>良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明(表現)できる</p> <p>最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明(表現)できる</p> <p>目標に到達していない； 説明(表現)できない</p>				
成績評価基準	筆記試験(100%)：到達目標1)～7)に対して				
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経発達の治療法総論	神経発達の治療理論における作業療法評価、治療介入に関して文献抄読を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
2	神経発達の治療理論における作業療法評価	神経発達の治療理論における作業療法に関して文献抄読、事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
3	神経発達の治療理論における治療介入、演習①	神経発達の治療理論における作業療法評価、治療介入に関して事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
4	神経発達の治療理論における治療介入、演習②	神経発達の治療理論における作業療法評価、治療介入に関して事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
5	神経発達の治療理論における治療介入、演習③	神経発達の治療理論における作業療法評価、治療介入に関して事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
6	感覚統合療法理論総論①	感覚統合理論における作業療法評価、治療介入に関して文献抄読を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森

				い、積極的に学習してください	
23	特別支援教育における作業療法評価、治療 介入、演習④	特別支援教育における作業療法評価、治療 介入について事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
24	発達障がい領域におけるICT支援、演習①	発達障がい領域におけるICT支援について事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
25	発達障がい領域におけるICT支援、演習②	発達障がい領域におけるICT支援について事例検討を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
26	発達障がい領域における福祉用具支援（主に車椅子、座位保持装置）①	発達障がい領域における福祉用具支援について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
27	発達障がい領域における福祉用具支援（主に車椅子、座位保持装置）②	発達障がい領域における福祉用具支援について学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
28	発達障がい領域における最新のトピックス①	発達障がい領域における最新のトピックスについて文献抄読を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
29	発達障がい領域における最新のトピックス②	発達障がい領域における最新のトピックスについて文献抄読を通して学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
30	研究計画の立案、文献検索、研究デザイン、討論	研究計画の立案、文献検索、研究デザインについて学習する	講義と討論	文献検索、英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森
日付					
後日連絡					

教科書	適宜、プリント等を配布する
参考書	なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	nmori@yachts.ac.jp(森研究室)
備考	

授業科目	作業療育学特論		科目英語表記	Advanced OT for child treatment																																
職名、担当教員氏名	非常勤講師 佐竹 真次																																			
科目責任者氏名	佐竹 真次																																			
学内連絡教員氏名	佐藤 寿晃																																			
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年																																	
科目区分	専門	必修・選択の別	選択																																	
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位																															
授業概要	<p>発達過程作業療法を基礎とした発達評価・治療に加えて、行動分析学、臨床発達心理学、臨床心理学、教育心理学等の観点から、発達障がいをもつ人の発達をトータルに支援するのに必要な個体要因と環境要因およびその関係性を概説する。</p> <p>また、家庭、福祉、保育、教育等の機関に対するコンサルテーションのあり方を学び、医療と教育のインターフェイスの役割をも具備した療育・教育的作業活動支援の学（作業療育学）について理解を深める。</p>																																			
到達目標	<p>①行動分析・行動アセスメントについて述べることができる。</p> <p>②発達に対する臨床心理・教育心理の役割を述べるができる。</p> <p>③対象への作業療育学的接近のあり方について述べるができる。</p> <p>④単一症例実験計画法を用いて作業療育学的接近の結果を整理することができる。</p> <p>⑤地域における作業療育学的発達支援のあり方について述べるができる。</p>																																			
成績評価方法	<p>討論（15点）</p> <p>理解度チェック（試験等）（45点）</p> <p>レポート提出（40点）等を総合して成績評価を行う。</p>																																			
成績評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>評価</th> <th>点数</th> <th>基準</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合格</td> <td>A</td> <td>100~90</td> <td>到達目標を達成し、特に優れた成績を収めている</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> <td>89~80</td> <td>到達目標を達成し、優れた成績を収めている</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> <td>79~70</td> <td>到達目標を達成し、良好な成績を収めている</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D</td> <td>69~60</td> <td>到達目標を最低限達成している</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>F</td> <td>59~0</td> <td>到達目標を達成していない</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>						判定	評価	点数	基準	GP	合格	A	100~90	到達目標を達成し、特に優れた成績を収めている	4		B	89~80	到達目標を達成し、優れた成績を収めている	3		C	79~70	到達目標を達成し、良好な成績を収めている	2		D	69~60	到達目標を最低限達成している	1	不合格	F	59~0	到達目標を達成していない	0
判定	評価	点数	基準	GP																																
合格	A	100~90	到達目標を達成し、特に優れた成績を収めている	4																																
	B	89~80	到達目標を達成し、優れた成績を収めている	3																																
	C	79~70	到達目標を達成し、良好な成績を収めている	2																																
	D	69~60	到達目標を最低限達成している	1																																
不合格	F	59~0	到達目標を達成していない	0																																
授業形式	対面授業およびリモート授業																																			

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	1. 行動分析	行動分析と作業療育学の関連について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
2	2. 行動アセスメント	行動アセスメントと作業療育学の関連について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
3	3. 発達と行動	発達と行動の障害ならびにそれらと作業療育学の関連について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
4	4. 発達と臨床心理	発達と臨床心理学ならびにそれらと作業療育学の関連について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
5	5. 発達と教育心理	発達と教育心理学ならびにそれらと作業療育学の関連について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹

6	6. 作業療育学と行動分析Ⅰ	作業療育学を展開するにあたっての実践的行動分析について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
7	7. 作業療育学と行動分析Ⅱ	作業療育学を展開するにあたっての実践的行動分析についてさらに理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
8	8. 作業療育学と行動コンサルテーションⅠ	作業療育学を展開するにあたっての行動コンサルテーションについて理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
9	9. 作業療育学と行動コンサルテーションⅡ	作業療育学を展開するにあたっての行動コンサルテーションについてさらに理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
10	10. 単一症例実験計画法	作業療育学を展開するにあたっての単一症例実験計画法について理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
11	11. 作業療育学と単一症例実験計画法Ⅰ	作業療育学を展開するにあたっての単一症例実験計画法をシミュレーションして理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
12	12. 作業療育学と単一症例実験計画法Ⅱ	作業療育学を展開するにあたっての単一症例実験計画法をシミュレーションしてさらに理解を深める。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
13	13. 地域における発達支援と作業療育学Ⅰ	地域における発達支援として作業療育学を展開している実践例を知る。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
14	14. 地域における発達支援と作業療育学Ⅱ	地域における発達支援として作業療育学を展開している実践例から学ぶ。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
15	15. 地域における発達支援の作業療育学的研究法	地域における発達支援として作業療育学を展開している実践を研究としてまとめ、発表する方法を学ぶ。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
日付					
集中講義（後日連絡）					

教科書	授業の度毎に文献を指定する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	佐竹真次：satake550918@gmail.com
備考	

授業科目	作業療育学特論演習		科目英語表記	Practicum OT for child treatment		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 佐竹 真次					
科目責任者氏名	佐竹 真次					
学内連絡教員氏名	佐藤 寿晃					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位	
授業概要	療育・教育的作業活動支援の学（作業療育学）における課題を文献的に検索し、その研究法を習得する。さらには、発達障がいをもつ人を支援するために、家庭、福祉、保育、教育等の機関や地域資源に作業療育学として介入する手法について演習し、それを身につける。					
到達目標	①作業療育学に関連する研究の研究計画について述べるができる。 ②発達障がいをもつ人を支援するために、家庭、福祉、保育、教育等の機関や地域資源に作業療育学の立場から介入・参画する手法について述べるができる。					
成績評価方法	討論（15点） 理解度チェック（試験等）（35点） ディスカッションへの寄与（50点）等を総合して成績評価を行う。					
成績評価基準	判定	評価	点数	基準	GP	
	合格	A	100~90	到達目標を達成し、特に優れた成績を収めている	4	
		B	89~80	到達目標を達成し、優れた成績を収めている	3	
		C	79~70	到達目標を達成し、良好な成績を収めている	2	
		D	69~60	到達目標を最低限達成している	1	
	不合格	F	59~0	到達目標を達成していない	0	
授業形式	対面授業およびリモート授業					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	作業療育学関連領域の文献研究Ⅰ	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹	
2	作業療育学関連領域の文献研究Ⅱ	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹	
3	作業療育学関連領域の文献研究Ⅲ	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹	
4	作業療育学関連領域の文献研究Ⅳ	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹	
5	作業療育学関連領域の文献研究Ⅴ	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深め	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹	

			るとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。		
6	作業療育学関連領域の文献研究VI	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
7	作業療育学関連領域の文献研究VII	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
8	作業療育学関連領域の文献研究VIII	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
9	作業療育学関連領域の文献研究IX	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
10	作業療育学関連領域の文献研究X	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
11	作業療育学関連領域の文献研究XI	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
12	作業療育学関連領域の文献研究XII	作業療育学関連領域の文献研究を行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
13	家庭生活に介入する作業療育学Ⅰ	家庭生活に介入する作業療育学について文献検討とデザインを行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
14	家庭生活に介入する作業療育学Ⅱ	家庭生活に介入する作業療育学について文献検討とデザインを行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
15	福祉における作業療育学Ⅰ	福祉に関連する作業療育学について文献検討とデザインを行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
16	福祉における作業療育学Ⅱ	福祉に関連する作業療育学について文献検討とデザインを行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深め	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹

			るとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。		
28	地域における作業療育学Ⅳ	地域に関連する作業療育学について文献検討とデザインを行う。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
29	作業療育学の展望Ⅰ	作業療育学の今後の展望について検討する。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹
30	作業療育学の展望Ⅱ	作業療育学の今後の展望について検討する。	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習も行う。	事前・途中で文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹

日付

集中講義（後日連絡）

教科書	授業の度毎に文献を指定する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐竹真次：satake550918@gmail.com
備考	

授業科目	作業療法学特別研究		科目英語表記	OT for Special Research	
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習／実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	10単位
授業概要	作業療法学分野のいずれかの領域から、院生が選択した研究課題について、研究のプロセスを踏んで、修士論文を作成する。				
到達目標	1. 作業療法に関わる諸問題に深い関心を持ち、その解決に向けて自ら積極的に行動する意欲がある。 2. 作業療法に関連する国際レベルの情報を収集し、批判する専門的知識や科学的思考力を有する。 3. 自らの課題を検証するための研究計画を立案することができ、かつ実行することができる。 4. 研究の実践に当たり、人や動物に対する倫理的配慮を怠らない謙虚な態度を有する。 5. 実験や調査で得られた情報を適切に分析・考察し、目的に沿った結論を導き出すことができる。 6. 研究結果を的確に表現し、他者に伝え、意見交換することができる。				
成績評価方法	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、主指導教員と副指導教員が総合的に評価します（100%）。尚、本学修士論文としての承認決議は、論文審査員による審議を経て最終的に研究科委員会で決定されます。				
成績評価基準	到達目標1～6に対して 特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る				
授業形式	対面または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	研究計画の作成 研究テーマの設定 研究の背景と目的 妥当な実験・調査方法 適切なデータの解析方法 研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的・仮説に対応した考察 結論の導出 研究のまとめ 修士論文の作成 発表準備	各指導教員が院生の選択した研究内容や実施状況に応じて、資料の収集方法や研究実施方法、解析方法、結果の解釈、文章表現などを定期的、あるいは必要に応じて集中的に指導する。 研究を進める中で、以下の場での発表機会が設けてある。 ・研究計画発表会 ・中間発表会 ・研究発表会 ・作業療学分野会	実習（研究）、プレゼンテーション	自らの研究課題に関する情報の収集に努めるとともに、研究計画と指導教員による指示に沿って、積極的に研究を実行して下さい。	藤井、菊池、佐藤、仁藤、森、千葉、鈴木、外川

教科書	指導教員の指示に従って下さい。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 森：研究室34 nmori@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp 鈴木由：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	修士論文作成のための計画書の提出日および修士論文の提出日が決められているので、十分注意すること。研究を開始する前に倫理委員会の承認が必要であるため、周到に準備すること。 自分自身のための修士論文に直接関わる内容です。自主性を持って、積極的に指導教員と協議しながら、しっかりと計画・実行・分析するよう努力して下さい。